

スギ養殖における類結節症の被害状況

[要約]

スギ養殖では、ここ数年細菌性疾病である類結節症が 11 ～ 6 月に多発する傾向があり、特に海水温が安定しない梅雨時期の被害が大きい。被害は稚魚から成魚まで、さまざまなサイズで見られた。

沖縄県水産試験場 増殖室				連絡先	098-994-3593		
部会名	水産	専門	養殖・水族病理	対象	スギ	分類	指導

[背景・ねらい]

近年本県のスギ養殖では、養殖生産量の増加とともに魚病による斃死が多発しており、特に類結節症による被害が重大な問題となっている。そこで、類結節症の発生時期や被害状況の実態を把握するため、魚病診断結果と漁業者からの聞き取り調査を行った。

[成果の内容・特徴]

- ① 2004 年 1 ～ 12 月までに魚病検査に持ち込まれたスギの原因疾病のうち、細菌性疾病の類結節症が 60 % を占めており、スギ養殖において重大な問題となっている (図 1)。
- ② 2004 年の漁業者からの聞き取り調査 (表 1) および、1998 ～ 2004 年に行った月別の魚病診断件数 (図 2) から、類結節症は 11 ～ 6 月に発生が多く、特に雨が多く海水温の安定しない梅雨時期に被害が大きいことがわかった。
- ③ 数 g の稚魚から 2 kg 以上の成魚まで様々なサイズで発症が確認されており、一経営体当たりの斃死は数千～数万尾と、大きな被害を受けている (表 1)。
- ④ 類結節症対策には主にアンピシリンが投薬されているが、アンピシリン耐性菌の出現が確認されている。

[成果の活用面、留意点]

- ① 類結節症細菌の至適温度は 23 ℃ で、塩分濃度 2 % で最も発育するとされている。
- ② 斃死が観察された場合はただちに水産試験場へ検査を依頼し、その結果をもとに、適切な投薬を行う必要がある。
- ③ マダイやブリ養殖では、免疫力向上のためビタミン投与が行われている。スギ養殖においても、類結節症の発生が多い 11 ～ 6 月はビタミン投与を実施し、免疫力向上に努めることが望ましい。

[具体的データ]

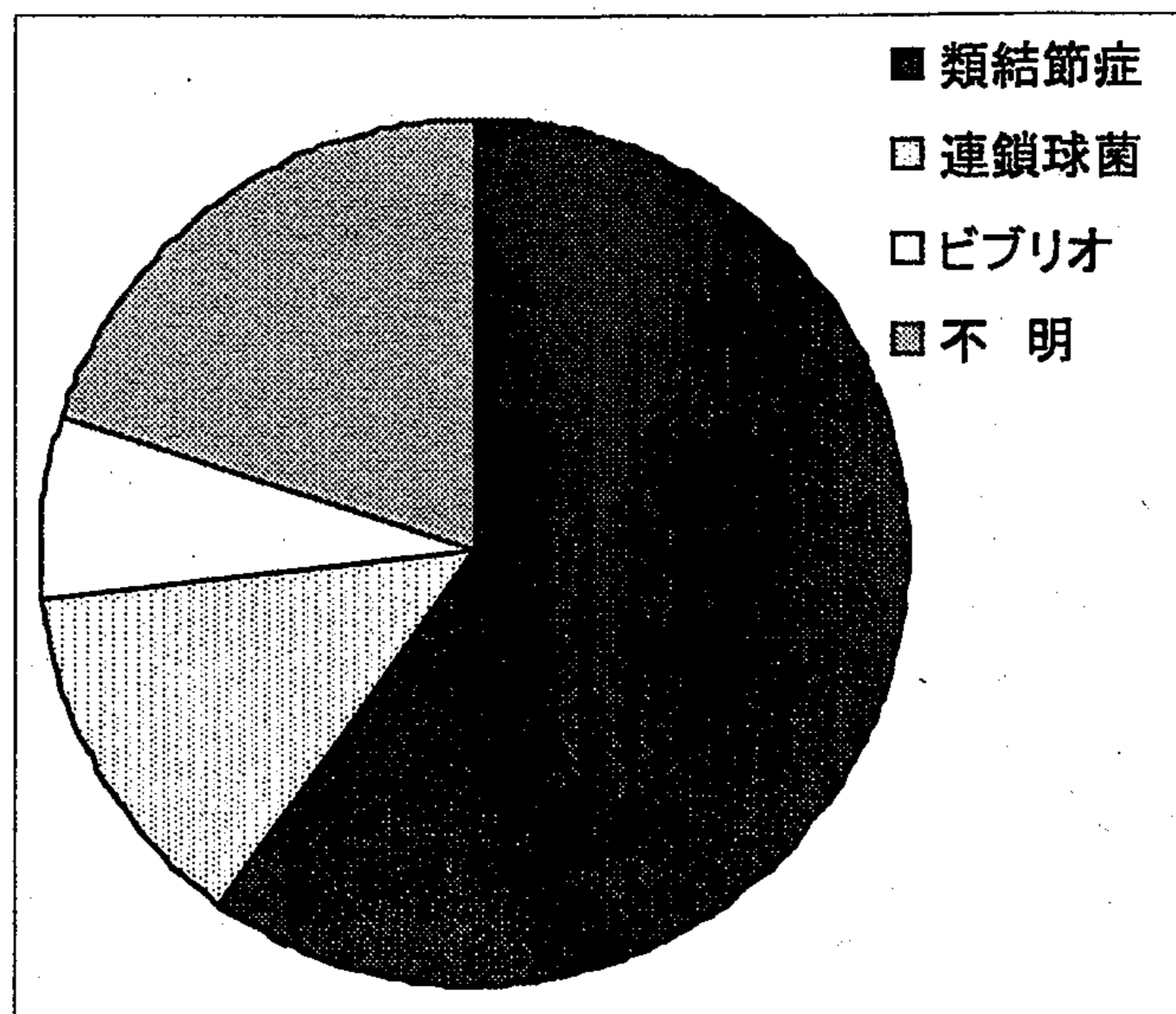


図1. 2004年1～12月のスギ養殖における疾病発生状況

表1. 漁業者からの聞き取り調査によるスギ養殖の類結節症被害状況 (2004年)

漁協名	発症時期	発症サイズ	斃死尾数
A	1 1-2月 4-6月	500～1,500 g 種苗～稚魚 (50 g)	数千尾/経営体
B	1-2月	1 kg サイズ	数千尾/経営体
C	1 1-2月 4-6月	1,500 g 種苗～稚魚 (50 g)	数千尾/経営体
D	4-6月 1-3月	種苗～稚魚 (50 g) 500～1,500 g	数千～数万尾 /経営体
E	4-7月 2-3月	種苗～稚魚 (50 g) 1～2 kg サイズ	数万尾/経営体

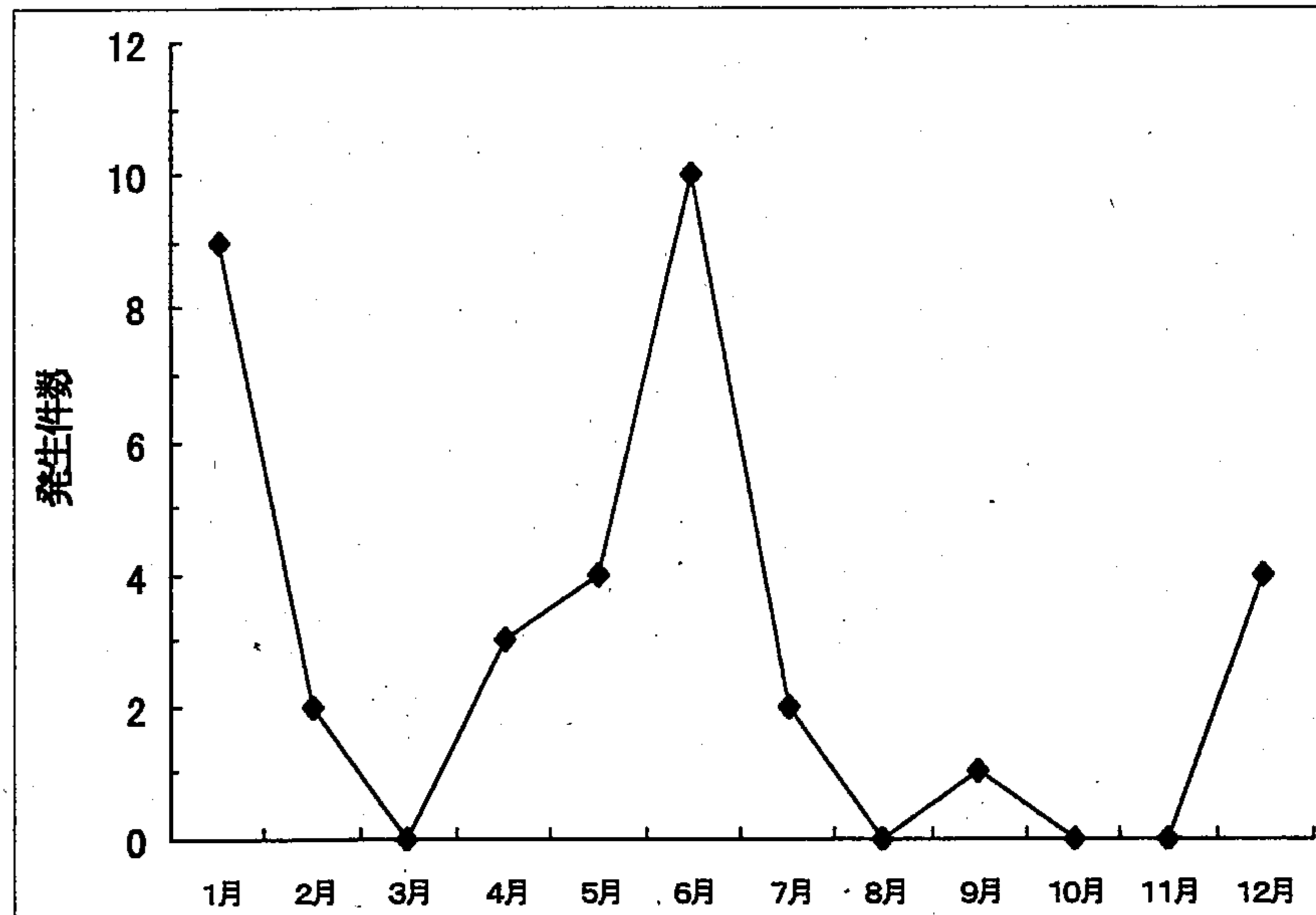


図2. スギ養殖における類結節症の月別被害状況 (1998～2004年)

[その他]

研究課題名：養殖魚介類の耐病性試験、スギ養殖技術開発試験

予算区分：県 単

研究期間：平成15年～17年

研究担当者：中村博幸、杉山昭博、玉城英信、牧野清人*、小澤明子* (*普及員)

発表論文等：平成16年度沖縄県水産試験場報告書掲載予定